

## 第54期中央労働講座参加報告

日本海地方伏木支部海陸分会 寺林壮晴

今回開催された第54期労働講座に日本海地方伏木支部より参加させていただきました。私個人としては、第51期労働講座に参加して以来2度目の参加となりました。前回は港湾の自動化についての内容であり全国の仲間と討論を行った経験があったが、今回の講義の内容についてはグループで討論し意見をまとめ、発表まで持っていくのに若干苦勞する内容であったと感じました。

初日の講義では、鈴木中央副委員長による「人材不足による離職対策におけるメンタルヘルス問題」についての講義を受けグループ討議を行いました。私たちのグループでは、各々自分達の支部・分会におけるメンタルヘルスに直結するであろう「長時間労働」「ハラスメント問題」「人間関係」などの意見交換を行い、最終的にはメンタルヘルスの問題は会社が真剣に取り組まなければならない事としても、働く組合員に一番近い我々組合執行部等が会社との間に入り少しでも「心が健康な状態」を保てるようにすることが大事だと感じました。

二日目の講義については鈴木中央委員長より「全国港湾の成り立ち」について畠山中央副委員長より「港湾運送事業法と港湾労働法の成り立ちとその背景」の内容による講義を受けグループ討論を行いました。それぞれの内容については難しい内容としても自分で少しは知っているつもりでいたが、講義を聞いてみるとまだまだ知らない事が多いと感じさせられました。

三日目の橋崎中央副委員長の講義内容の「詫間港運闘争から学んだ団結の必要性」については当時の橋崎支部委員長の労働委員会闘争の内容を聞き、労働組合の必要性と団結の重要性を再確認することができたと思います。

今回の労働講座を通して感じたことは、様々な内容の講義を受けて知識を高めることも重要な事と思うが、全国の仲間が集結し同じグループの仲間と意見交換を交わし、親睦が深まることが全港湾の団体に繋がると思う。

団結とは力だと思ひ、その力こそ全港湾の力としてこれからも全国の仲間と前進していきたいと思ひ。